

ディケンズの言語的特徴をどう解析するか？

DH の手法による文体論研究の挑戦

船田佐央子

19 世紀の英国小説家・ディケンズの文学作品における文体的特徴の一つは、メタファーやメトニミーなどの比喩表現が頻繁に使用されていることである。そして、ディケンズが使用する比喩自体には、精巧な筆致や色彩に富んだ描写、作家独自の鋭い観察眼や想像力に基づく技巧が多く含まれるため、常に読者の注意や関心を引き寄せる効果がある。従来、このような比喩の研究は、精読を通じたアナログ的な手法に依存してきたが、近年ではデジタル・ヒューマニティーズ (DH) という学問分野の発展により、コンコーダンスを用いた定量的・統計的分析も可能となった。本発表では、ディケンズの『ハード・タイムズ』(1854) におけるメタファーに着目し、その言語的機能と修辭的效果を明らかにすることを目的として、デジタルリソースを活用した統計的な言語分析を行なう。併せて、発表者がこれまで取り組んできた手作業によるアナログ的な言語・文体研究の有効性を再検証し、さらに DH の観点からオンライン上の言語データベースを活用した研究手法の意義とその果たす役割についても考察する。

1. 文体論研究およびメタファー研究の動向

文体論研究は、従来の「記述的な文体論」に加え、認知言語学の観点からの「認知文体論」や、コーパス言語学と文体論を統合した「コーパス文体論」などに見られるように、研究のアプローチ手法が多様化している。また近年では、DH の発展により、デジタル版テキストの分析やデジタル技術を用いた創作活動などを含む「デジタル文体論」という研究領域も注目されている。このような研究手法の変化は、文体論に新たな視座をもたらしている。

また、メタファーの研究手法は時代の流れとともに多様化しつつある。例えば、メタファーへのアプローチとして、Brooke-Rose (1958) や Goatly (1997; 2011) による文法に基づいたメタファーの研究、Goatly (1997) による意味論に基づいたメタファーの研究、Lakoff and Johnson (1980) や Kövecses (2010) のように言語レベルを超えた認知言語学の観点からのメタファーの研究、更には Deignan (2005) のようにコーパス言語学の手法からアプローチするメタファーの研究がある。そして、これらの理論的枠組みをディケンズの『ハード・タイムズ』における比喩表現に適用することは、彼の文体的特徴を分析する上で重要な鍵となる。

2. ディケンズの『ハード・タイムズ』におけるメタファー表現の分析

2.1 アナログ的観点からの考察

本節では、『ハード・タイムズ』におけるメタファー表現を、Goatly (2011) による品詞別のメタファー分析法を参考として、主に文法的側面から分析する。

本作品では、名詞のメタファーが特に顕著に見られ、“Noun + Copula + Noun”の形式が多用されている。また“(Determiner) + Noun”の形式も多く、例えば、ヨークタウンという都市の労働者達は“the Hands”と描写されているが、これは体の一部（すなわち「手」）によって、部分から全体を象徴的に表すメトニミーとして機能する。さらに、“smoke-serpents”のような複合名詞の使用は稀であるが、ヨークタウンの工場の煙を「蛇」に喩える表現を通じて、周囲環境の陰鬱さを強調するとともに、工場で働く大勢の人間の姿を軽蔑的に描く効果もある。また特筆すべき点は、ディケンズの比喩において“serpent”が頻出していることである。例えば、『デイヴィッド・コパーフィールド』(1850) では、悪漢 Uriah Heep が“detestable serpent”に喩えられており、「非人間化」の技法によって彼の人格が否定されている。しかしその一方で、『ハード・タイムズ』においては、“serpent”は人間が人間以外の生物や事物に置き換えられるような「非人間化」の技法は一例も見られない。また、形容詞のメタファーについては、名詞に比べて頻度が低いが、登場人物の性格や外観を描く際に“metallic”や“brassy”といった、ネガティブなイメージを伴う語が用いられ

ている。特に“square”という形容詞は、主人公トマス・グラッドグラインドの角張った体や柔軟性のない、冷淡な性格を象徴的に表現する効果がある。さらに、副詞や動詞のメタファーも存在するが、頻度数は少ない。特に副詞のメタファーは名詞に比べて意味概念の度合いが低いため、読者にとって認識されにくく、目立たないとされる。一方、動詞のメタファーにおいては、「時間」を「人間」に見立てる「人間化」の技法が多用されており、止まることなく進行する時間の速さや人間に対する冷たさを象徴的に表している点が興味深い。

以上の分析により、ディケンズのメタファーは、文法的な形式においては特に名詞メタファーが頻繁に用いられていること、またプラスのイメージを伴う描写よりもネガティブな意味合いを含むメタファーが多用されていることが明らかとなった。

2.2 デジタル的観点からの考察

次に、コーパス文体論の立場からディケンズのメタファーを検証するべく、文学テキストの分析が可能なオンラインコーパス The CLiC web app (CLiC) および British National Corpus (BNC) を用い、語彙の使用頻度、共起関係、文脈上の言語機能を調査した。

名詞のメタファーについては、“the Hands”や“smoke-serpents”といった語彙の用例を CLiC で検索することにより、ディケンズ特有の表現や頻度数を確認することができる。但し、“hands”のように字義通りの用法とメタファー用法が混在する語については、文脈に沿って精読しない限り、メタファーであるか否かの識別が困難であることが明らかとなった。これは他の語彙（例：“square,” “Roman,” “classical”など）にも共通する問題である。一方、形容詞や副詞のメタファーに関しては、例えば“metallic,” “Coriolanian,” “squarely”といった語彙は、表現の特異性ゆえに比較的識別しやすく、CLiC などのデジタル媒体によって瞬時にメタファーの用例を抽出することが可能である。しかし、それらがディケンズ特有の表現であるか否かを判断するには、OED Online 版や BNC などといった他のデジタルリソースを併用する必要がある。さらに、動詞のメタファーの例として、“Time passed.”という表現が挙げられるが、メタファーとしての用例が極めて少ないため、これがディケンズ特有のメタファーであるかどうかの判断材料になり得る。しかし、動詞“pass”のみならず、他の動詞においても字義通りの用法とメタファー用法の両方が検索結果として抽出されるため、検索の対象語によってはメタファーであるか否かの判断は読者が文脈に沿ってテキストを手でめぐりながら精読するアナログ的手法が不可欠である。

以上から明らかとなったように、上述のようなコンコーダンスに基づく用例検索は、語彙の使用頻度やコロケーションの観点からの共起関係の分析に有効であるが、文学作品におけるメタファーの識別には、読者の精読作業と文脈に基づく解釈が前提として欠かせない。特に、名詞や動詞のメタファーは文脈上の読者の丹念な読みと正確な用例の抽出が不可欠であるため、デジタル化が加速する現代においてもアナログ的な研究方法は蔑ろにできない。一方、形容詞や副詞のメタファーはデジタルリソースを介して研究を実践すれば、用例検索により即座に識別できる場合が多く、使用頻度や単語間の共起関係を分析する上で有効である。したがって、『ハード・タイムズ』におけるメタファー研究には、「アナログ」と「デジタル」の手法の両側面をバランスよく合わせた方法論が肝要である。

参考文献 Brooke-Rose, Christine. (1958) *A Grammar of Metaphor*. London: Secker. / Davies, Mark. (2004) *British National Corpus* (from Oxford University Press), available at <https://www.english-corpora.org/bnc/> / Deignan, Alice. (2005) *Metaphor and Corpus Linguistics*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins. / Goatly, Andrew. (1997) *The Language of Metaphors*. London: Routledge. / Goatly, Andrew. (2011) *The Language of Metaphors*. The Second Edition. London: Routledge. / Kövecses, Zoltán. (2010) *Metaphor: A Practical Introduction*. The Second Edition. Oxford: Oxford University Press. / Lakoff, G. and Johnson, M. (1980) *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago Press. / Mahlberg, M., Stockwell, P., Wiegand, V. and Lentin, J. (2020) *CLiC 2.1. Corpus Linguistics in Context*, available at: clic.bham.ac.uk / *The Oxford English Dictionary*, online (OED3), available at: <https://www.oed.com/>